

No. C01	Aグループ	年月日	令和5年7月7日(金)
---------	-------	-----	-------------

【設問1】事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。

がん治療で1年休職し、治療後復職したCLが職場で周囲の人から過度な心配をされ戸惑いを感じている。また休職期間中の後任者が重宝がられている仕事ぶりを見て居場所が無いよう感じている。

【設問2】事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答を行ったと考えるかを記述せよ。

良 がん治療のための休職を経て復職した経験や、今の働きづらさについて語ってもらった点。

悪 職場の人から気を遣われ困惑するCLの気持ちを十分に語っていただくことが出来なかった点。

【設問3】あなたが考える相談者の問題（①）とその根拠（②）について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。

①問題 がん治療で1年休職し、治療後復帰したCLが職場で周囲の人から体調について正しい理解が不足したままで疎外感を抱いている。また会社がCLに期待する役割についてCLが認識できていない。

②その根拠 職場で周囲の人から過度に心配されることに對し、しようがないと理解する反面、「そんなことされてもなあ」と戸惑いや疎外感を抱いている。またCLの仕事について戻ってくる席は保証されている約束だが、後任者が元の部署に戻らないことについてCLは「話が違う」と感じている。

【設問4】設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。

この先無いな、と感じるほどの思いで治療を終えて、職場復帰したCLが働きづらさを感じながらも勤務していることを労い、更なる信頼関係の構築に努める。そのうえで、CLの体調について正しい理解を職場に理解いただいたうえで、不要な配慮と勤務するうえで必要な配慮について、CLの意向と会社の認識を合わせ、CLが過度の配慮に委縮することがなくなるよう提言する。また、CLの仕事について会社の期待する役割をCLと相互で認識できるよう場の提供等も提案する。最終的にはCLが治療で仕事を断念するのではなく治療と仕事を両立しながら働き続けられるよう、支援をさせていただく。

注：解答用紙の裏面および行外に記述されたものは採点されません。

(2023.7)キャリアコンサルタント試験 実技（論述）解答用紙